

## 目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

# SEA いわき経済同友会 IWAKI

## 3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

7月号/2013年7月1日発行

■平成25年6月12日(水)

## 6月通常例会

会場/建設会館5F

### テーマ「ふるさと発見・ディスカバーいわき」

～いわきの歴史、伝統、文化の中から私たちの学ぶべき智恵を考えてみよう～

大国魂神社 宮司 山名 隆弘氏(いわき地域学会相談役)



ご紹介頂きました山名です。よろしくお願ひします。実はここに来る直前迄、朝日新聞の記者に田植えおどり(浪江・請け戸)についての取材を受けていました。

この郷土芸能・民俗芸能を継承して行くことは、並み大抵の苦勞ではありません。いわきが誇る民俗芸能に“じゃんがら”があります。私どものいわき市菅波では、4年前に菅波伝統文化継承会をつくり存続に努めてまいりました。

先週、国立劇場に於いて東日本復興支援「東北民俗芸能」に菅波の“じゃんがら”が出演して参りました。天下一品、素晴らしいものでした。菅波では、幼少の頃から“じゃんがら”“獅子舞”の練習をやっていますが、この青年会にも今から22～23年前に

最大の危機が迫りました。子供の数も1～2人の時代、進学の為、故郷を離れ、遂に会員が2人になってしまいました。これで“じゃんがら”“獅子舞”を続けることができるのだろうか。そこで考えました。

◆誕生月プレゼント  
ハイビスカスが贈られました。  
寺主君男代表幹事  
松尾幸治さん  
(6月25日生)



東京、横浜に進学している大学生を引っ張り出して、東京ドームで野球を見せてビールを吞ませて余技を教えようという手を考えましたところ、見事に功を奏し青年会が息を吹き返しました。ですから、私ども菅波では今も続いているのです。彼らはこの震災の後、いろいろな慰霊祭に呼ばれ鎮魂、慰霊に努めて参りました。この経験をした彼らは、自ら先週の国立劇場出場前に靖国神社にての奉納を希望し実行してきました。これが精神的な先祖からの繋がりを後世に残すことの大切さではないでしょうか。

○赤坂憲雄氏の論説より（福島県立博物館館長）

2006年9月の新聞記事より、いわきの人物「大須賀筠軒」についての記事より、「磐城物産誌」「磐城誌料歳時民俗記」を著わし、“経世済民の人”が存在した事を書いています。

### ●いわき発見！！

- ・いわきンダッペ族をめざめさせるために、どんな治療が必要か。
- ・豊かさになれて心からマヒしていないか。ボケていないか。
- ・東日本大震災によって何を学んだか。
- ・人材出てよ！人づくり・郷土(くに)づくり。もっと日本をもっと世界へ。
- ・覚醒・自己変革・よみがえり・経世済民はすべて歴史に学ぶことから。

人は、感性の違い、生き方の違いによって人の見方に違いがあります。またその地域地域によっての違いがあります。例えばいわきで言ったら浜の人と平の人とは違いがありますが、私は、すべて“いわきンダッペ族”と称しています。

昔から「人の悪いは磐城の平」という言葉を聞いたことがあると思いますが、何故このように言われているのでしょうか。

江戸時代の元文3年(1738年)平城下に打ちこわし、百姓一揆が起こります。私はこの頃にこの言葉が言われ始めたのではないかと考えています。この時、立ち上がった農民の数は5万人とも8万人とも言われています。これにより7年後、城主内藤氏は延岡へ国替えとなり、艱難辛苦を味わいます。その内藤氏の家臣たちの一部が参勤交代の為の江戸にて「人

の悪いは磐城の平」と愚痴ったのではないかと、というのが私の想像であります。

年表を開いたついでに、曾祖母から聞いた百姓一揆から140年後の今話題の時代、戊辰戦争(1868年)の話をしてしまおう。大雨が降り、私どもの神社の前の愛谷江筋は人の血で真っ赤に染まり、新川町の方からは多くの死体が流れて来たと言われました。この曾祖母、祖母からの話は、後に私が歴史に興味を持った理由でもありました。

- ・沼の内の諏訪神社の倒れた石の鳥居、狛犬で作った記念物としてのモニュメント。
- ・磐城高校所蔵の国重文の天冠男子像埴輪。
- ・大須賀筠軒のあんぽ柿の作り方等。

大須賀筠軒（おおすがいんけん）

天保12年(1841)－大正元年(1912)

大須賀筠軒は、磐城平藩の儒学者、神林復所の三男として生まれました。神林家は七俵二人扶持と禄高が少ない学問の家でした。8歳になった筠軒は、藩校・施政堂に入学、さらに安政6年(1859)、19歳の時、藩の許しを得て幕府の学問所・昌平黌の大学頭林復齋の門に入ります。文久2年(1862)、当時、老中の藩主・安藤信正が坂下門外の変で失脚、筠軒は学半ばで平に戻り、施政堂の世話役頭取(一人扶持)となりました。平藩は幕府からの追罰により5万石から3万石に減封となり、藩士を減らすことを計画します。筠軒は、帰農策を建議しますが、受け入れられず、元治元年(1864)に土籍を脱し、田之網村(現いわき市久之浜町字田之網)の大須賀家に入婿、大須賀家の家業である漁業や水産加工業に携わりました。

戊辰戦争後は佑賢堂と改称した藩校で講師を務め、その後明治8年(1875)、磐前県第四番中学校の教師を経て磐前県の地誌編輯掛となりました。翌9年、磐前県は福島県に合併され、筠軒は福島県雇いとなり、翌10年には内国勸業博覧会福島県委員を務めます。同12年には行方・宇多郡長に着任しますが、同15年に辞職。その後、定職に就かず各地を遊歴して画家として生計をたてた12年間がありました。明治27年、福島県尋常中学校(現県立安積高校)の教師、同29年から37年は第二高等学校(現東北大学)で教鞭をとりました。

主な著作に三善の焼失した「磐城志」を再現しようとした「磐城史料筠軒稿本」(明治20年代中頃)、それを刊本にした『磐城史料』乾坤(明治45年)、ほかに「磐城郡村誌」(明治11年)、『美術漫評』(明治19年)、磐城物産誌」(明治24年頃)、「磐城誌料歳時民俗記」(明治25年)、『緑筠軒詩鈔』(大正元年)があります。

### 7月の ご案内 グループ会

- 経済特区研究グループ会 /  
・最終週をターゲットにいわき市職員による取組報告と情報交換を計画
- まちづくり観光グループ会 / 7月29日(月) 18:30～ 場所 椿山荘  
納涼会を開催予定
- スポーツ交流グループ会 / 7月22日(月) 18:10～ 会場 いわきグリーンスタジアム  
オールスターゲーム2013いわき観戦  
7月28日(日)～29日(月) ジョイプランで行く『富士登山』
- 資質向上グループ会 / 7月20日(土) 栃木県方面

## 6月グループ会報告

### 経済特区研究グループ会

■日 時 6月26日(水曜日)18:30～  
■場 所 建設会館3階会議室

テーマ:市議員から見た、いわきの復興

講師:いわき市議員(会員)小野潤三氏

目的:グループ会目標の特区研究の為、いわき市の復旧・復興の状況を学びグループ会活動・取組のベースとする。

内 容

- 1)いわき市の復旧の状況について  
復旧計画(124の復旧事業)は3年で完了する。2事業のみ26年度までかかるが進捗状況は順調。
- 2)復興の取組について  
復興事業計画(5つの柱:194の事業)の策定と第一次/二次/実行計画 事業費2,860億。平成27年度までに復興をやり遂げる。  
①災害公営住宅(1,500戸)今年度中にほとんど整備  
②復興交付金(H24年度770億/県より多い)の活用計画策定。震災前の計画もクリア(共立病院/イオンモール/魚市場/スクールカウンセラー等)  
③課題として予算増えたが市職員増えていない。自前の予算ではない。
- 3)特区の取組について(補助金等)  
①中小企業等グループ補助金(900事業者:300億円)現在第10次  
②企業立地補助金(設備投資補助)現在第3次  
③福島県産業復興投資促進特区(県:税制優遇)  
④サンシャイン観光特区(同友会で強力で推進)  
⑤第一次産業にに対してこれから県に申請予定
- 4)その他



いわき市議員(会員)  
小野潤三氏



- ①双葉地区避難行政/避難者との折り合いをつけていく事必要
- ②質問や意見交換も活発に行われた。生の声を聞くことで実態が正しく理解することができた。

### まちづくり観光グループ会

■日 時 6月25日(水曜日)18:30～  
■場 所 建設会館5階

カジノ協議会サポート室合同報告会及び今後の推進方法について

オブザーバー参加者

東日本国際大学 福迫先生  
湯本温泉旅館組合 草野理事長  
いわき青年会議所 佐藤、赤津様

1.6月11日に開催されました、全国カジノ誘致団体協議会についての参加報告

参加者 寺主代表、大和田常任幹事、田子グループ長  
オブザーバー参加した総会の席上にて、協議会参加の承認を得る。(詳細は議事録参照)

2.今後の推進方法について

IR議員連盟(最高顧問 安倍総理他、会長 細田氏)により、参議委員選挙後の秋の国会にカジノ法案が提出される予定。これを受け、各地の推進団体の誘致活動が一気に加速される見込み。我々としても急ピッチに動きを加速させ、統一ビジョン作成に向け前進していくことを確認。ワーキンググループをつくり、役割分担を明確にする。(詳細は議事録参照)

### スポーツ交流グループ会

■日 時 6月18日(火曜日)18:30～  
■場 所 スポーツクラブJOYFITいわき内郷

今春オープンした「スポーツクラブJOYFITいわき内郷」に施設見学・無料体験を行った。

平近郊において本格的スポーツクラブ施設は数が少なく、同施設に期待する方々も多いようで、見学した日も非常に多くの利用客で賑わっていた。

18:30から20:00までの短い時間ではあったが、寺主代表幹事をはじめ全9名にてアスレチック、トレーニングマシン、ランニングマシンなどを体験した。

体験途中には、先月開設したfacebookへの実況投稿なども行ってみた。

体験の後はノンアルコールビールでの反省会をし、参加者での懇親を深めた。

## 資質向上研究グループ会

■日 時 6月12日(水曜日)18:00～  
■場 所 いわき建設会館

6月例会は第4グループ会の担当例会であり、講師に大國魂神社の宮司 山名 隆弘氏をお招きして、「ふるさとの歴史、伝統、文化の中から私たちが学ぶべき智恵を考えてみよう」をテーマで、ご講演を頂きました。

福島県は、浜通り・中通り・会津の三地方があり、浜通りは70kmの海岸線を持つ いわきは、豊かな海・山・川・野の幸に恵まれ、温泉・鉱泉も多く景観の優れた土地であり、海道いわき歴史略年表を見ても古くから歴史のある土地柄である。いわきには潮目の海がある。当然 魚・塩・米 等が豊富に取れる所であり、必然的に北方及び南方より、漁師及びその家族達が入ってきて集落を形成する。

南方より人が集まれば、奈良からの信仰も共にやってきて、神社・仏閣が出来る。

いわきの人物について

大須賀筠軒(いんけん)は、「磐城資料筠軒稿本」「磐城郡村誌」「磐城物産誌」等々の著作があり、磐城地域のさまざまな物産の状況をその歴史的な変遷や明治中期における栽培・産出の実態などを含めて、トータルに後世に伝えようとする意図が明らかであり、いわゆる経世済民の人であった。

## FMいわき「いわき経済同友会だより」

7月予定放送

- ・7月1日 会員増強委員会 佐久間一枝様
- ・7月8日 研修委員会 小松ひと美様
- ・7月15日 第1グループ会 新妻 弘道様
- ・7月22日 監 事 山名 二郎様
- ・7月29日 第3グループ会 田中 寛様

◇毎週月曜日 17時45分からです。(約5分間)  
※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。  
<http://www.simulradio.jp/>

## いわきブランド研究会

■日 時 6月20日(木曜日)9:45開会  
■場 所 いわき市中央卸売市場調理室

第3回カジキ料理コンテストがいわき市中央卸売市場2F調理実習室にて開催されました。

始めに主催者を代表して、当同友会寺主君男代表幹事の挨拶からスタートし来賓の挨拶、武藤実行委員長の挨拶と続き、森田副実行委員長より出場者の紹介の後調理が開始された。

今回は予選を勝ち抜いた7組が最終審査に臨みました。また、安部義孝アクアマリン館長を審査委員長に10名の審査委員が、創造性、味覚、盛り付け、アイデアなどを基準に評価いたしました。グランプリには、レストラン&バーマリーナの「カジキと彩り野菜のタルトレット」が見事栄冠に輝きました、ほか各賞は以下の通りです。

敢闘賞－農家レストランぶろばんす亭「ぶろばんす風カジキもちもちロール」

味覚賞－そば処心平庵「ヘルシー、ウレシー、オイシー、ギョウザ!!」

企画・アイデア賞－楽彩味処 源太「屋台でカジキボール」

技能賞－道の駅よつくら港海カフェ「幸せを呼ぶ・よつくらぶベーグルサンド」

優秀盛付賞－和楽食 ありが亭「キーマ風カジキカレー」

審査員特別賞－福島県立磐城農業高等学校「カジキケバブ～カジキアイスを添えて」

## 新入会員紹介



## マリク サリーム

株式会社シャインオートトレーニング  
代表取締役社長  
業 種 / 中古自動車販売業  
会社所在地 〒971-8183  
いわき市泉町下川字畑中156-1

## 7月通常例会 7月17日(水)

18:30～例会 19:00～講演会 会場/建設会館5F

テーマ「総合磐城共立病院の現状とこれから」

いわき市立総合磐城共立病院 院長 樋渡 信夫氏

19:00～例会 19:30～講演会 21:00～懇親会(天政 会費2,000円)

## 8月通常例会 8月20日(火)

18:30～例会 19:00～講演会 会場/生涯学習プラザ

テーマ「いわきの将来を見据え、中小企業の進む道を考える」 講師 藻谷 浩介氏

いわき経済同友会  
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。  
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館 4F  
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211  
<http://www.seaiwaki.jp>  
E-mail: doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 寺主君男代表幹事  
編集 情報委員会 委員長 坂本和久  
副委員長 / 小野英典・鈴木清友・田村慎太郎  
馬場 学・山崎勇一郎